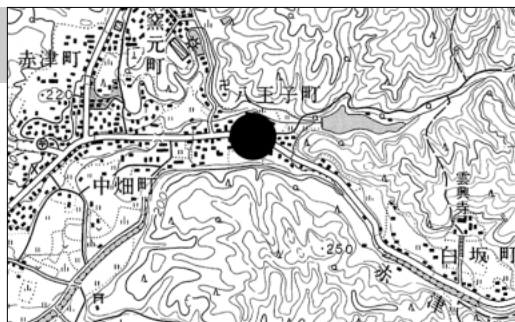


はちおうじ
八王子遺跡

所在地 瀬戸市八王子町
 調査理由 東海環状自動車道建設
 調査期間 平成12年5月～8月(A区)・11月～12月(B区)
 調査面積 2,400 m²
 担当者 北村和宏・小澤一弘・魚住英史



調査地点(1/2.5万「猿投山」)

調査の経過 調査は東海環状自動車道建設に伴う事前調査として、建設省(現国土交通省)から愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。

立地と環境 八王子遺跡は矢田川の支流、赤津川と木下川によって形成された狭小な沖積地に位置する。調査地点は、木下川左岸及び赤津川右岸に形成された河岸段丘上に立地する。本遺跡の東約500 mには縄文時代と中世の複合遺跡白坂雲興寺遺跡が所在する。

調査の概要 調査は、県道瀬戸設楽線に接する南部を00 A区、名鉄瀬戸自動車営業所の建物があった木下川に接する北部を00 B区として、2調査区で実施した(以下00略)。

A区は、調査前、調査区を北西から南東に結ぶラインあたりで擁壁が築かれており、それを境に南北が上下2段に分かれ比高差約1 mを測った。南側(県道側)の上段部では、20～30 cm表土を剥くとベースの黄褐色の粗粒砂が露呈し、近現代の家屋建築による削平が大部分を占めた。北側下段部の基本層序は、整地層(客土)、黄灰色土及び黄褐色土(旧耕作土)、黒褐色粘質土(遺物包含層)、暗褐色粘質土の順である。調査区の中ほどから東側では、縄文時代早期を中心とする遺物包含層である黒褐色粘質土層が厚く堆積し、多量の縄文土器片と共に石鏃やスクレイパー、磨製石斧などが出土した。調査区北西側では自然の旧流路と思われるSD 03を検出した。

A区と現木下川との間に位置するB区は、その大半が旧流域(氾濫原)に相当しており、その埋土中から縄文時代をはじめ各時代の遺物の出土がみられた。

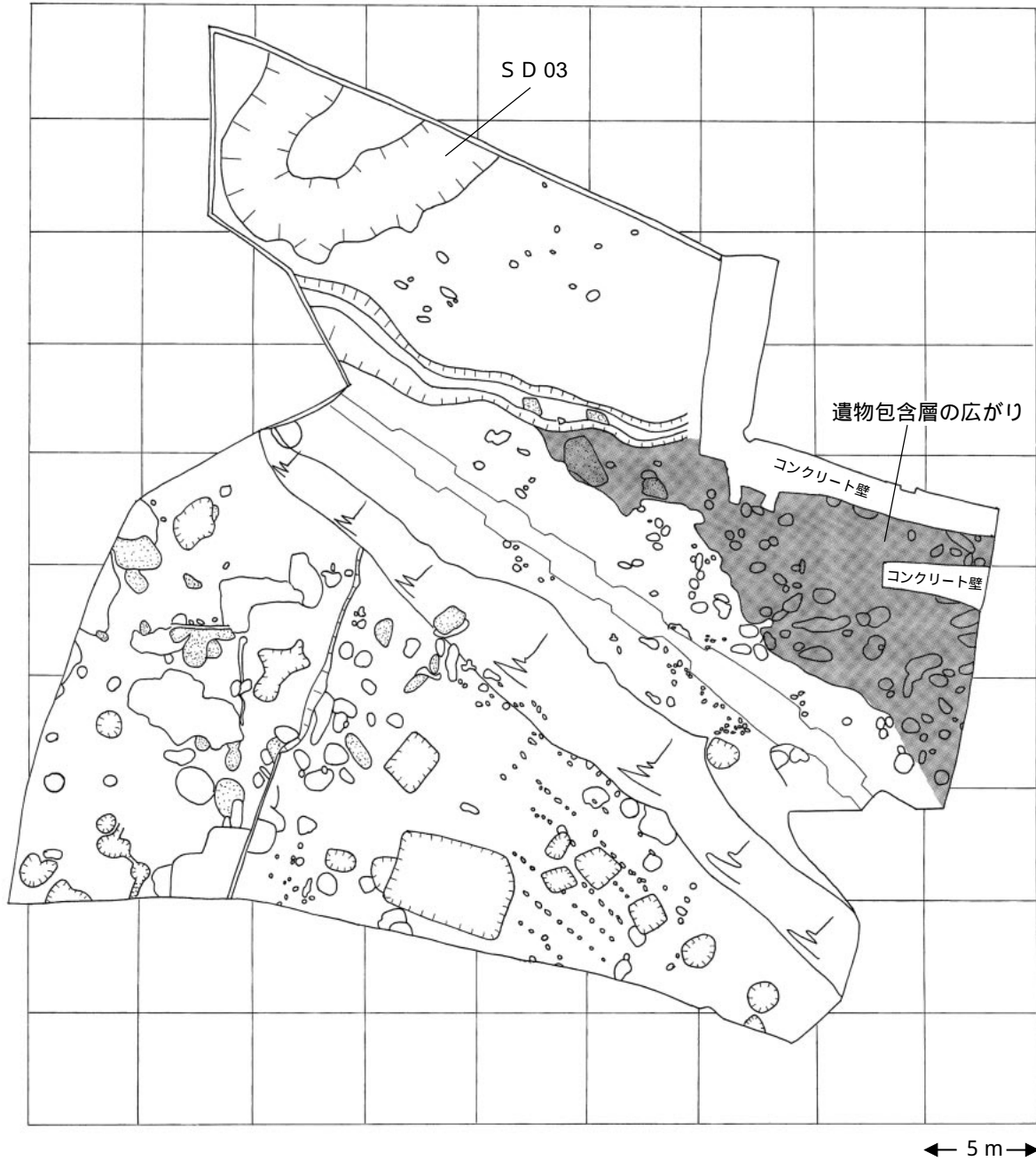
(魚住英史)



A区 全景(東より)



B区 全景(東より)



A区 遺構全体図(1:300)